



みんなの思い

退院前に日帰りや1泊での大地帰寮を母付き添いのもとに行いました。みんなが「おかえり！」と水野さんの部屋に来てくれました。退院日を伝えると「よかったねえ、うれしいねえ」と喜んでくれた仲間、全身に力を入れて、大きな声で「ゆういちー!!」と声をかけてくれた仲間、ご飯の時間になっても「ここにいます」

大地が開所して15年、医療面での配慮やケアが色濃くなってきました。看護師はより高度な医療面をカバーし、作業療法士は一人ひとりの仲間の身体状況を把握し、適切なリハビリを行っています。職員は研修や学習会、専門職の指導を通して仲間たちの健康や命を守るための知識と手技、観察力を身につけています。今後、障害の進行により医療的ケアを必要とする仲間が増えていくで

安心できる暮らしになるために

水野さんが「生きたい」と強く思ったのは、これまでの生活が充実していたからです。そう思ったのは、いっしょに笑いあえる人がいたこと、いつも気に掛けてくれる人がそばに居てくれたこと、いろいろな経験ができたこと、そのことを喜びあえたこと、そんな大地の仲間たちとこれからずっと生活していきたいと思っただけだと感じています。

思いの寄る添い

と離れようとせず、頻繁に部屋に来て、そばにいてくれた仲間。みんなが水野さんの帰りを心待ちにしていました。そして脳出血を発症して1年2ヶ月。再び大地での生活がスタートしました。



あろう中で、健康や命が守られている安心感の上に、生活を通して仲間の笑顔や喜び、発達を十分に保障しているけるよう、大地の機能や役割、地域連携も含めて考えていくことが必要ではないかと思えます。一人ひとりの願いを大切に、仲間たちとたくさん笑顔の積み重ねていければと思います。

大地職員 金子 知幸



おひさま通信

暮らしを支える①

— 大 地 —

人と関わるのが大好きな水野裕一さん。仲間と一緒にウエスを力強く裂き、カーテン閉めや胃ろうスタンド運び等、生活の中での役割や係、楽しみを通して毎日を過ごしていました。仲間と一緒に過ごす時間がとても居心地のいい空間であることが笑顔からうかがえます。

生命の危機に直面する

平成28年5月、夜間に突然の嘔吐、痙攣により緊急搬送され、「脳出血」という診断を受けました。脳内や脳幹に血液がたまってしまい、痙攣と高熱が続き、生死をさまよう数日間がありました。「がんばろう水野さん」と仲間みんなで水野さんの回復を願いました。みんなの願いが通じ



たのか、痙攣は治まり、脳内にたまった血液も流れ、高熱との戦いも一ヶ月ぐらいで落ち着きました。

「生きる」ことが確信できたのは奇跡と言っても大げさではありません。「生きたい」と思う水野さんの強い思いが勝つたのだと感じています。献身的に支え続けた母の思いも水野さんの「生きたい」思いを強く後押ししたのだと思います。

3ヶ月後に療養型病院へ転院となりました。療養型病院では安定した環境、適切な医療的ケアのもと、酸素吸入量も徐々に減り、吸引の頻度も減っていきました。週2〜3回車椅子に乗車し、リハビリを行えるほどに回復し、声かけにも反応し、何かを握る、離すなど手指を動かすことができるようになりました。徐々にではありますが、想像すら難しかった驚異的な回復をみせてくれるようになりました。

命を守る土台を整える

大地では、「さまざまな刺激や環境を通して、また笑顔がみられるように大地で受け入れができる環境を整える」という方針を掲げ、次のことを進めていきました。

①退院後はその日の体調と相談し徐々に活動に参加していくことを当面の生活リズムとしていくこと。②出来るだけ室温変化のない環境をつくることで身体面での負担を減らすこと。ベッドの導入、吸引器の設置等、居室内における生活環境を整えること。③日中、夜間とも様子を観察できる環境づくり、看護師のいない夜間帯においては適切な判断と吸引等適切な処置ができるよう、喀痰吸引等

響き

地域活動支援センターたいよう

*10月11日、日帰り旅行第2弾 上野動物園へ行って来ました。

赤ちゃんパンダのシャンシャン（香港）に直面することはできませんでしたが、様々な動物の可愛いしに癒やされました。

昼食は、東京都美術館内のレストランで食べました。

シャイン

*春に種まきをした野菜が大きくなり、子どもたちと一緒に収穫をしました。とれたてはその場で食べ、人参とかぼちゃは誕生会の時に、ドーナツとケーキをみんなで作りました。

白岡太陽の家にじ

*にじでは、月々木の午後活動にウォーキングを取り入れています。（雨天の場合は室内で体操やダンス）蓮田の山ノ神沼を秋の草花を見ながらおしゃべりを楽しみ歩いて、「健康」「体力維持」に励んでいます。

太陽の里

*毎年、「特定非営利活動法人 見沼ファーム21」さんから「ありがとう米」をいただき、味の違いを楽しんでいます。もち米は、お餅をついたり、鏡餅にします。もみ殻や、米ぬかも畑の土づくりに利用させてもらっています。

蓮田はすの実作業所

*11月9日から10日に一泊旅行で山梨県に行ってきました。仲間実行委員会を立ち上げ、準備の段階から仲間も一緒になって考えていきました。

ブドウの食べ放題、信玄餅のつめ放題と仲間たちは楽しめたようです。

アトリエ輪

*武蔵野美術大学で学生たちによる作品展が開催されました。きらつと班からは鶴岡さん、高谷さん、西川さんの作品が展示されました。美術大だけあり独創的なコンセプトの中、仲間の作品が展示されるのを目の当たりにするといつも見ていた作品とはまた異なった輝き方があり、とても素晴らしいものでした。